

# 錦湯

Nishikiyu  
(京都府京都市)



今日は大阪で息子のアメフトの試合を観戦し、明日は京都でアメフトの試合観戦があるため、京都で宿泊することになった。ホテルの場所は四条烏丸の近く。にぎやかな通りには外国人がうじゃうじゃいる。今回紹介する錦湯は、このにぎやかな通りからわずか100m以内のところにあるが、付近の人通りはとても少ない。

錦湯は町屋のような雰囲気の良い銭湯だ。京都市内で最も渋い銭湯のうちの一つであろう。外観は一見すると3階建てのように見えるが、2階建てである。入口から男女に分かれている

スタイルは東京ではあまりないかもしれない。

中に入ると期待通りにレトロな雰囲気が漂っている。下駄箱は木製でとても古そうである。奥行きがなく、私の26cmの靴でも蓋が閉まりにくい。下駄箱の数は少なく、たったの18足分だ。

脱衣場所のロッカーも木製。こちらも相当古い。特徴的なのは、その形状だ。縦方向に短く正方形ではない。中を開けると籠が入っている。この籠を引き出しのように使う。ロッカーの数も少なく、たったの15個しかない。ロッカーが足りない場合は、籠に脱いだ物を入れる。籠なら20個以上ある。

籠には片側に番号が記載されていて、もう片方に何やら名前が記載されている。これは広告だったのかもしれない。脱衣場所にはこれまたレトロな扇風機が2個ある。

さて、いよいよ浴室へ。入口には「You are in heaven.」との記載が。外国人の客は多くはないと思うが、この心意気はどこまで通じるであろうか。実は、この記載は浴室にも2か所ある。ご主人のこだわりなのであろう。

浴室は洗い場が右手に集められ、出入口付近は少々だだっ広くなっている。洗い場は全部で14か所。椅子は、古い銭湯らしく低い。桶はもちろん黄色いケロリンである。

浴槽は全部で5種類。一番手前が水風呂(定員1人)。さらに順番に深風呂(定員2人)、浅風呂(定員4人)、深風呂の電気風呂(定員2人)、薬湯(定員2人)だ。薬湯以外はどれも熱めで、薬湯だけが適温だ。京都の銭湯も東京の銭湯と同様に熱い風呂が主流なのだろうか。電気風呂は狭くて逃げ場がないので、上級者向けであろう。

浴槽への湯水の注ぎ口は、お洒落である。水風呂はライオンの口から水が出ており、浅風呂は鯉らしき魚の口から湯が注がれている。その魚の上には人間がまたがっており、マフラーをかけられている。

浴室から出て脱衣場所を見渡していると、下駄箱の近くに錦湯で開催されている寄席の紹介があった。毎週月曜日の20:00から開催しているという。待てよ、月曜日と言えばこの銭湯は休みである。つまり、銭湯は営業していないが、寄席はやっている。そういうことなのである。寄席は脱衣場所で行っているのだろうか。

錦湯は、京都らしい古い銭湯だ。東京の渋い銭湯と対比させながら楽しむと、いろいろな発見があって面白い。



DATA

名称	錦湯
所在地	京都府京都市中京区堺町通錦小路下る八百屋町 535
電話	075-221-6479
営業時間	16:00~24:00
定休日	月曜日
入浴料	大人 (12歳以上) 430円 中人 (6歳以上 12歳未満 (小学生)) 150円 6歳未満 (未就学児) 60円
サウナ	なし
サウナ内のテレビ	なし
取材日	2018年6月2日 (土)
取材	銭湯愛好会東京支部